令和8(2026)年度　IAMASの概要説明



情報科学芸術大学院大学

Institute of Advanced Media Arts and Sciences

ー目次ー

組織の概要　3
活動の概要　11
運営の概要　27

IAMASの目的

情報科学芸術大学院大学[IAMAS]は、科学的知性と芸術的感性の融合を目指した学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、未来社会の新しいあり方を創造的に開拓する「高度な表現者」を養成するとともに、学術文化の向上及び地域の振興に寄与することを目的に、岐阜県が2001年に開学した大学院大学です。



浅井睦（Metalium llc.）（博士前期課程2年）
『Superposition machine』
「クセがあるアワード：混」佐藤正和審査員賞

－ 沿 革

1996　岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー（IAMAS）を設立

2001　情報科学芸術大学院大学を開設
メディア表現研究科（修士課程）を設置
大学附属研究機関メディア文化センター（CMC）を設置
大学附属図書館を設置

2005　リンツ美術工芸大学と交換留学生協定

2010　メディア文化センター（CMC）を産業文化研究センター（RCIC）に改名

2012　岐阜県行政改革アクションプランにより国際情報科学芸術アカデミーを廃止

2014　ソフトピアジャパン地区へ、全学移転

2021　メディア表現研究科（博士後期課程）を新設

教育目標

情報科学芸術大学院大学は建学の理念に基づき、新しい文化を創造する高度な表現力を授け、現代社会の諸問題に応答できる人の育成を教育目標として掲げています。

- 学位授与方針（ディプロマポリシー）

情報科学芸術大学院大学は建学の理念に基づき、科学技術と哲学・思想的視野をともなう新しい文化を創造する高度な表現者の育成を目標とし、その目標のために編成されたカリキュラムにおいて、所定の単位を取得することに加え、論文審査あるいは作品・論文審査、及び最終試験を合格した学生に修了を認定し、学位を授与します。

その際、以下の点が問われます。

- 専門性を有した自立したアーティスト・デザイナー・エンジニア・研究者・教育者として、必要な能力を身につけたか。
- 高い倫理性と強い責任感を意識し、未来の人間の生き方、幸福を追求しながら、研究が現代社会の諸問題に対する応答として成果を得ることができたか。
- 研究領域によらず様々な分野を専門とする人々とも互いに積極的に関わりあい、その交流の中から生み出される「新しい知」のあり方を身につけたか。

- 教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

情報科学芸術大学院大学は建学の理念に基づき、新しい文化を創造する高度な表現力修得を目指し、体系的に専門性を獲得するための実践的かつ領域横断的な科目を配置し、講義、演習、実習等を適切に組合せた高度な授業を開講するとともに優れた研究指導を行います。

- 高度な表現者としての素養を身に付けるとともに、社会の多様な要請に対応した幅広い知識と実践力を修得するため、プロジェクト科目および特別研究科目を設置する。
- 自らを批評し研究成果の社会的意義を問うための綜合科目を設置する。
- 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために専門科目および制作演習科目を設置する。
- 問題発見力、課題探求力、問題解決力、表現能力、コミュニケーション能力など、研究において必須となる汎用的な能力を育成するため導入科目を設置する。

- 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

多様な背景を持った学生により高度な学習機会を与えるために、積極的な情報発信を行い、面接を主体とした多様な入学者選抜を実施しています。その際、以下のような学生の入学を想定しています。

- 自らの専門領域を活かし、他分野と横断的な探求をする。
- 情報社会の新しいあり方を創造的に開拓する。
- 人や社会との新しい関係性を考え、次世代の産業を創出する。
- 様々な形態の芸術表現から新しい文化を創造する。
- 情報やコミュニケーションに新たな形を与え、地域社会に提案する心豊かな社会の実現をめざす。

全ての大学等において、以下の三つの方針を一貫性あるものとして策定し、公表するものとする。
①修了認定・学位授与の方針、②教育課程編成・実施の方針、③入学者受け入れの方針
（学校教育法施行規則一部改正平成28年3月31日改正、平成29年4月1日施行）

学　生

- 芸術、情報、工学、社会科学の出身者等、分野の多様化が進んでいます。
- 社会人経験者が2～4割を占めます。
- 全国各地からの学生構成となっています。

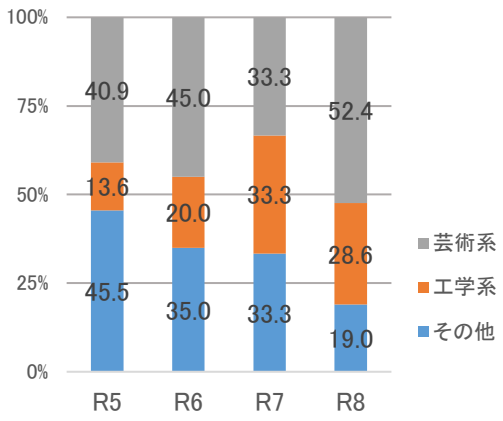
－ 修士課程 学生受入状況（人）

	入学者	（倍率）	性別 男	性別 女	出身地別 県内	出身地別 県外	出身地別 外国	経歴別 大卒業	経歴別 院修了	経歴別 高専	経歴別 研究生	経歴別 専門学校等	経歴別 社会人
R8年度	20	（1.7）	13	7	3	17	2	12		1			5
R7年度	21	（1.9）	12	9	1	20	3	13				1	7
R6年度	19	（1.9）	10	9	1	17	1	19					2
R5年度	22	（1.9）	11	11	2	17	3	20	1			1	5
R4年度	22	（1.3）	17	5	2	18	2	20	1			1	8

－ 博士後期課程 学生受入状況（人）

	入学者	（倍率）	性別 男	性別 女	出身地別 県内	出身地別 県外	出身地別 外国	経歴別 大卒業	経歴別 院修了	経歴別 高専	経歴別 研究生	経歴別 専門学校等	経歴別 社会人
R8年度	1	（3.0）	0	1	0	1	0						1
R7年度	3	（1.3）	2	1	0	3	0		1				2
R6年度	2	（1.5）	2	0	0	2	0		2				2
R5年度	3	（1.3）	2	1	0	3	0		3				2

－ 出身分野（%）



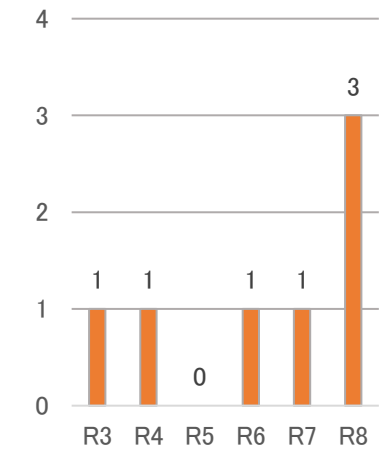
－ 出身大学等

R8- 福井大、名古屋文理大、岐阜高専専攻科、山口大、北陸大、京都芸術大、東京芸術大、金沢工業大、岡山県立大、静岡文化芸術大、千葉工業大、立命館大、慶応義塾大

R7- 慶應義塾大、名古屋芸術大、二松学舎大、同志社大、東洋大、創形美術学校、長岡造形大、東京理科大、九州大、岐阜大（院）、多摩美術大、東京藝術大、佐賀大、武蔵野美術大、法政大、広島市立大（院）、金城学院大、大阪芸術大、東京外語大、金沢美術工芸大、成安造形大、相愛大、シュトゥットガルト音楽・演劇大

R6- 東京外国語大、武庫川女子大、武蔵野美術大、慶應義塾大、福島大、大阪芸術大、岡山県立大、会津大、法政大、熊本県立大、名古屋芸術大、近畿大、成安造形大、大阪公立大、京都市立芸術大、university of the arts london、大阪大（院）、上海戯劇学院

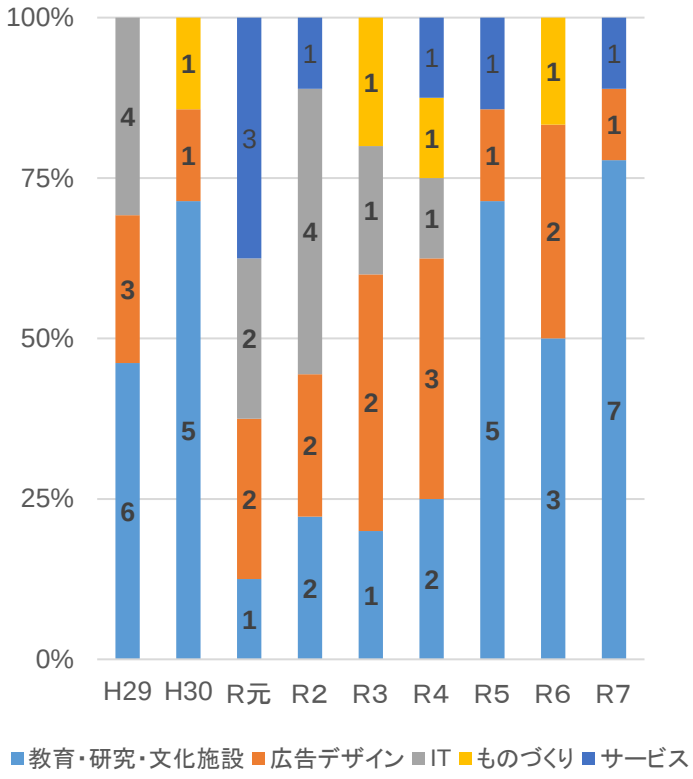
－ 研究生の受入状況（人）



進　路

- 教育機関や文化施設、広告やデザイン系企業への就職が多い傾向となっています。
- フリーランスや自営でデザインやアートなどクリエイティブな仕事をする者もいます。

－ 進路状況（人）



－ 修了生の進路

－ 就職先（過去の主な就職先）

－ 県内

㈱インフォファーム、㈱TAB、本巣市地域おこし協力隊、岐阜各務野高等学校、中村直永デザイン事務所、Fresh Lab Takayama、（公財）ソフトピアジャパン、㈱GOCCO、ちょいみせキッチン、IAMAS

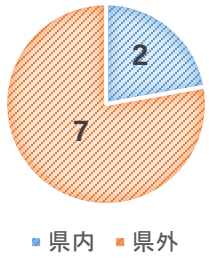
－ 県外

NHK、名古屋音楽大学、（公財）京都芸術文化協会京都芸術センター、㈱オルタスジャパン、多摩美術大学、㈱サイバーエージェント、㈱ケイズデザインラボ、ユカイ工学㈱、㈱日本テレビアート、㈱二番工房、京都造形芸術大学、㈱プロノハーツ、Noiz Architects、NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]、㈲BANZAI CREATIVE 、愛知淑徳大学、Takram desing engineering、㈱電通、㈱博報堂プロダクツ、㈱カヤック、（特非）こどもNPO、山口芸術情報センター[YCAM]、京都精華大学、秋田公立美術大学、㈱ゼオ、㈱QUANTUM、神戸芸術工科大学、㈱ライゾマティクス、名古屋芸術大学、㈱Hakbee Lanka、㈱桃鶴堂、㈱丹青社、1-10 drive、都城市立図書館、東京藝術大学、静岡文化芸術大学、同志社女子大学、
関西学院大学、ANKR、DESIGN、SODクリエイト㈱、チームラボ㈱、EPFJ㈱、北アルプス国際芸術祭実行委員会事務局、ローランドディー.ジー.㈱、㈱HAPPY ANALYTICS、㈱日本ビジネスプレス、（一財）JR東日本文化創造財団、㈱TASKO、Metalium㈾、愛知県立緑丘高校、㈱白、㈱Memento Mori

－ 進学（過去の進学先）

京都市立芸術大学大学院美術研究科博士（後期）課程、慶應義塾大学大学院後期博士課程

－ 就職先県内外別R7（人）



組織図



- 教職員数

	教授	准教授	講師	助教	教員合計（左計）	事務局職員	専門職等
大学院大学	10	7	2	0	19	11	12
（うち女性）	（0）	(2)	(2)		（4）	（6）	（6）

RCIC

- 産業文化研究センター（Research Center for Industrial Culture 通称RCIC）は2011年度より開設されたIAMASの附置研究機関です。
- 産業文化に関する学際的・総合的な研究を行うとともに、学外の諸機関との連携を図りつつ、本学の社会的機能を維持・発展させることを目的とし、「地域連携・産学官連携活動」「広報・情報アーカイブ活動」「文化活動」の3つを軸として活動しています。
- 近年は、県内の自治体や企業とのネットワーク構築や、IAMAS卒業生との連携・協力等によるIAMASネットワークの強化にも力を入れながら、様々な活動を展開しています。

地域連携・産学官連携活動

❖ 研究成果を活用した体験型ワークショップの実施

大垣市および刈谷市において、アニメーションと音をテーマとしたワークショップを実施する。
IAMASにおける研究成果を広く一般に公開するとともに、参加者が実際に手を動かしながらメディア表現の仕組みや面白さに触れる機会をつくります。
特に刈谷市では、ワークショップの成果を展示と連動させ、体験と鑑賞を通して研究内容を伝える実践を行います。





ふたつの歩幅でうごきをつくる「絵とびアニメーション」
「絵とび」という手法を使って、絵と絵の間隔によって生まれる動きの変化や表現の違いを体験し、動きが生まれる仕組みへの理解を深めます。
・2026年10月18日：大垣市スイトピアセンター
・2026年12月12日：刈谷市総合文化センター

身の回りの音を録音してリズムパターンを作ろう
身の回りにあるさまざまな音をスマートフォンで収録し、自分だけのリズムパターンを制作する。さまざまな音に耳を傾け、音を収集・編集する体験を通して、音の面白さや新たな音楽表現に触れます。
・2026年12月12日：刈谷市総合文化センター

広報・情報アーカイブ活動

❖ Kioskを使用したポスター展示

Action Design Research Projectが制作した空間デザインシステム「Kiosk」を使用して、IAMASの学校紹介とRCICの連携活動報告展示を行います。フレキシブルな空間の提案の研究を広報活動を通して行います。

IAMAS Overview
日程：2026年1月28日日 –2月10日
場所：岐阜県庁 1F GALLERY GIFU

IAMAS OPEN HOUSE 2026
日程：2026年7月18日-19日
場所：ソフトピアジャパン 1F





IAMAS OPEN HOUSE 2026
2026年7月18日(土) –19日(日)

Ogaki Mini Maker Faire 2026
2026年12月5日(土) -6日(日)
ソフトピアジャパン・センタービル

KARIYAアーツLAB.vol.2 めとみみメディアラボ ～うごくしくみと、おとのふしぎ～
2026年12月22日（火）～ 27日（日）
刈谷市総合文化センター

文化活動

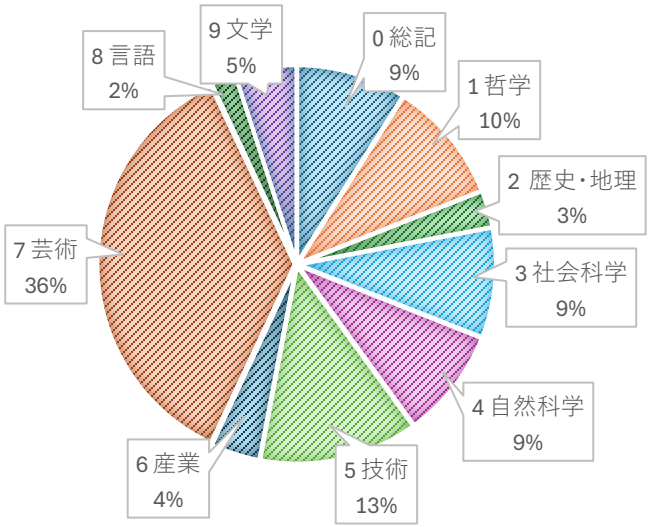
メディア表現研究科の教員と在学生が、多様な研究成果を発表するイベントとして「IAMAS OPEN HOUSE 2026」を開催します。科学的知性と芸術的感性の融合を目指し、理論と応用を実践する研究科の取り組みを広く来場者に紹介することを目的として、毎年開催しています。また、2026年度は、ものづくりの祭典「Ogaki Mini Maker Faire 2026」への出展や、刈谷市総合文化センターでの展示を行い、学外での文化活動を通してIAMASの研究や取り組みを広く発信します。

RCICでは、これらの事業におけるディレクション、展示計画、進行管理を行います。

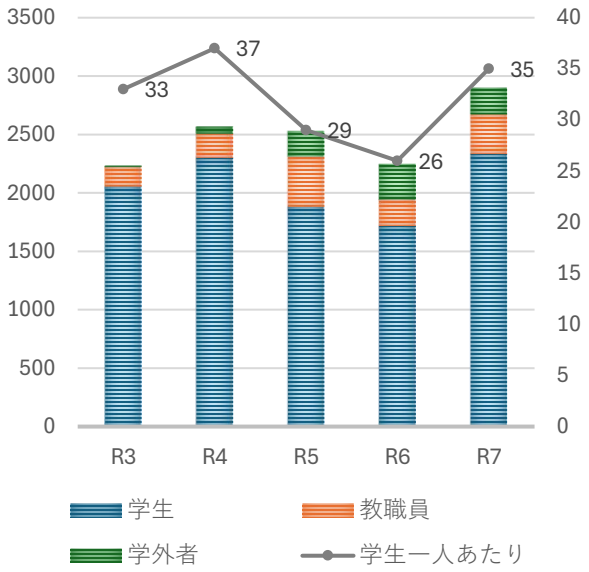
附　属
図書館

- 教育研究支援…メディア表現の教育研究に資する資料を重点的に収集しており、蔵書構成では総記(情報)、技術、芸術の分野の割合が大きい
- 地域貢献…学外者(県内在住・在勤)の利用にも対応しており、地域に開かれた図書館として機能している
- その他…移転後10年が経過し、環境整備、蔵書管理など累積している課題を解消するとともに、独自資料を中心にアーカイブ化も検討している

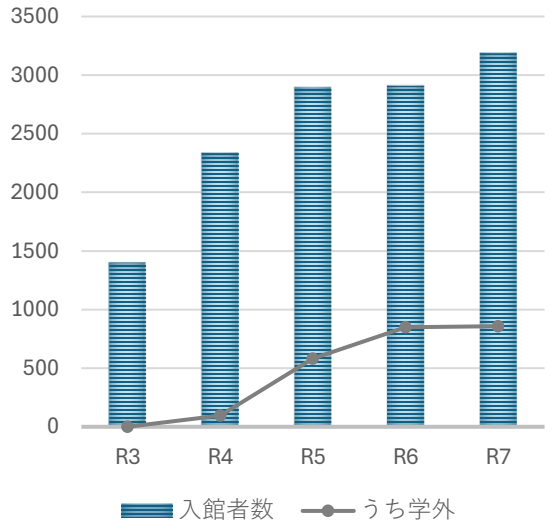
・分類別蔵書割合



・貸出点数



・入館者数



－ 蔵書数（R7.3現在）

図書	46,356冊
視聴覚資料（DVDなど）	3,298点
雑誌	210種
電子ジャーナル	8種
データベース	1種

ー 取り組み

R7年度実施
- ・倉庫内の資料を含めた資料3,000点の除籍
- ・資料保存のためVHSビデオのデジタル化開始
- ・視聴覚ブースの整備　など

R8年度予定
- ・作業スペース確保を含めた書架調整と資料チェック及び補修
- ・IAMAS関連情報の整理





教　育

- IAMASでの授業は、個人、グループ、社会という構成を特色としています。「特別研究科目」は研究活動に対する課題解決に必要な方法等を習得するゼミ形式によるチームティーチングを特色とする科目です。
- 制作演習は、プロジェクト実習や個人制作を行うにあたって重要と思われる実践的なスキルを習得することを目的とした授業です。
- 2019年度から「社会人短期在学コース」を設置しました。また、2021年4月に博士後期課程を開設しました。

－　博士後期課程の設置（2021年4月開設）

IAMASは、修士課程のみの大学院大学として、最新の科学技術や文化を吸収しながら先端的な「芸術表現やデザイン、新しいコミュニティやものづくりのあり方などを社会へ提案し、実践的な研究を通じて「高度な表現者」の育成を目指してきました。

しかし、大学院において設置が一般的な博士後期課程が無いことで（国公立大学における博士課程設置率は約85%）、優秀な人材が他大学を選択したり、IAMASを卒業後に、さらに研究を継続したい学生がやむを得ず他大学の博士課程に進学するなどの課題が生じています。

そのため、修士2年、博士3年、計5年間の一貫教育研究体制を整備し、大学の魅力度を高め、社会実践力のある研究成果を生み出せる体制整備を目的として、博士後期課程の新設を申請し、2020年10月に文部科学大臣より認可を受け、2021年4月に開設しました。

［博士後期課程］
開設年月：2021年4月
修業年限：3年
入学定員：3人

〔2021年度入学者〕
出願者数：6名
入学者数：3名（男性3名）

〔2022年度入学者数〕
出願者数：2名
入学者数：2名（男性1名、女性1名）

〔2023年度入学者数〕
出願者数：4名
入学者数：3名（男性2名、女性1名）

〔2024年度入学者数〕
出願者数：3名
入学者数：2名（男性2名）

〔2025年度入学者数〕
出願者数：4名
入学者数：3名（男性2名、女性1名）

〔2026年度入学者数〕
出願者数：3名
入学者数：1名（女性1名）

－　社会人短期在学コースの設置

本学は、2019年度より社会人短期在学コースを設置しました。

このコースは、作品制作や社会活動など何らかの実績がある人々や、企業などで先駆的な研究・開発テーマに取り組んでいる人々を対象とし、本学でそれらの実績を基に研究を進めることを前提として、通常は2年間の大学院修士課程を1年間に凝縮したカリキュラムで実施するコースです。

［コースの特徴］
通常は2年間の修士課程が1年間に凝縮されている他は全く同じ内容のコースとなっており、夜間や休日に開催される独立したコースではありません。

このため、自らの活動を振り返り、関連する分野について学び、徹底的に言語化することに集中できます。また、同時期に在学する他の学生と一緒にチームとして活動することを通じて、異分野の刺激を受け、修了後も継続する関係性を構築することができます。

［2021年度入学者］
入学者数：2名

〔2022年度入学者数〕
入学者数：3名

〔2023年度入学者数〕
入学者数：1名

〔2024年度入学者数〕
入学者数：0名

〔2025年度入学者数〕
入学者数：0名

〔2026年度入学者数〕
入学者数：0名

研　究

プロジェクト型研究
- IAMASの研究の中心の一つにプロジェクト研究があり、研究の関心や方向性が示されます。これからの社会における創造や新しい社会を創るデザインをテーマにした研究が増えています。
- プロジェクト研究では、広い視野と企画力、組織力、加えてアイデアを実現に導くマネージメント能力などを身につけることを目指します。

Augmented State Project

近年、意識に対する関心が高まりサイケデリックに関する研究が進展しています。これにより、変性意識状態が精神的安定をもたらすことが明らかになり、AIによる知能のシミュレーション等による意識や体験への新たなアプローチが可能となっています。本研究は、映像や音楽、XR技術を通して変性意識体験を表現する手法とテクノロジーを探求していきます。また、実験成果は学術発表にとどまらず、NxPC.Labの活動を通じて外部への実践に繋がることが期待されています。

研究代表者：平林真実教授、
研究分担者：小林孝浩教授、飛谷謙介准教授、萩原健一准教授
2025年度～

【2026年度の活動】
- 昨年度に情報処理学会インタラクション2026にてDreamachineVRを「Dreamachine VR：サイケデリック体験を誘発する脳波駆動型VR」というタイトルでデモ発表（3月）
- 株式会社コネルとの共同研究が開始、Virtual Hallcinogen(deepdreamによるHMDのパススルー画像を変容させる XR作品、永井の修了作品）の拡張がテーマ
- オープンハウスにて、M1の習作3点（それぞれ変性意識をもたらすメディアとして、夢、キノコ、白煙の空間などを用いた作品）、教員作品1点、DreamachineVR, Virtual Hallcinogen を展示。（7月）
- DreamachineVRがSIGGRAPH ASIA XRに採択（12月にマレーシアにて発表）
- NxPC.Labの活動として、6月に新入生イベント「NxPC.Live vol.78 ベルクソン的生命論に基づく非人間中心主義批判についての試論」をIAMAS Gallery1にて実施。7月のオープンハウスにて「NxPC.Live vol.79 Gestalt」をソフトピアジャパンセミナーホールにて実施。



DreamachineVR



NxPC.Live vol.79
Geslalt

テクノロジーの〈解釈学〉

テクノロジーのうち人工知能に代表される高度で複雑化したハイテクノロジーは、単なる道具に還元されブラックボックス化されるか、不可避で抗えない変化をもたらすものとして扱われる傾向にあります。本プロジェクトでは、テクノロジーに関する責任を手放さず、かといって決定論的なものだとして絶望しないための方策として、自在に〈解釈〉ができるという考え方に基づく作品群を提示すると共に、それらの作品群と体験者たちの経験を基に「テクノロジーの〈解釈学〉」として理論化することに取り組んでいます。
最終年度となる今年度は、Augmented State Projectとの協働により、11月下旬にSHIBAURA HOUSE（東京都港区）にて展覧会「the Augmentation」を開催する予定です。

研究代表者：小林茂教授
研究分担者：大久保美紀准教授、鈴木悦久准教授、ジダーノワ・アリーナ講師
2024年度～

【2026年度の活動】
- 文献購読：マルティン・ハイデガー『技術とは何だろうか』、平井靖史：編『時間を哲学する』（6～7月）
  - ○ 再制作に取り組むにあたり共通の基盤を構築するため、技術哲学と時間哲学についての文献を輪読形式で読み、議論を深めました
- 展示：IAMAS OPEN HOUSE 2026「レシピの解釈学」（7月）
  - ○ 再制作に取り組む前の準備段階として、共通のレシピを各自で解釈して料理を制作することに取り組み、考察も含めて展示しました
- 作品の再制作・展示：クワクボリョウタ《10番目の感傷（点・線・面）》、やんツー《落書きの原理について》（8～11月）
  - ○ 公開されている情報をできるだけ深く読み込み、作品の「レシピ」として記述した上で再制作に取り組み、その過程も含めて展示する予定です





IAMAS OPEN HOUSE 2026での「レシピの〈解釈学〉」展示の様子

Sensory Museography

本プロジェクトでは「身体化された認知」をテーマに展示空間を設計し、鑑賞者の視線、位置情報の計測に質問紙調査を組み合わせ、芸術学的作品解釈に工学的なデータ解析を加えます。そして得られた知見に基づき次回の展示空間設計を行うことで循環的設計手法を提案します。これにより美術教育やキュレーション実践に応用可能な知見を提示します。

研究代表者：菅実花准教授
研究分担者：赤羽亭教授、飛谷謙介准教授
2026年度～

●2026年度の活動
今年度はスイトピア×イアマス連携事業「おもいがけず、おもいえがく」展の企画・運営・この会場での実験実施を中心に活動している。ゲストアーティストは、津田道子、菅野創+ 米澤拓郎 + 興野悠太郎、Scott Allen。
会期：2026年11月14日(土)～28日(土)
会場：大垣市スイトピアセンター　アートギャラリー(学習館1階)
【前期】
・レクチャー：「展示室（ホワイトキューブ）の歴史」と鑑賞体験を分析する先行研究の共有。
・機材の使い方の習得：位置情報を取得する機材。視線計測をする機材。
・倫理審査の書面確認：事前に実験計画を練る。
・展覧会での視線計測の実践：7月の菅実花個展会場で学生が被験者・スタッフとして視線計測をおこなった。実際の実験フローの確認。
・ゲストアーティストとの打ち合わせ：各アーティストごとに担当学生二名が中心となり、搬入までの事前準備、実験デザインの相談を進めた。
・展覧会の決定：プロジェクションサイエンスの「投射」コンセプトの共有と展覧会タイトル（韻を踏む・子供でもわかる言葉・鑑賞体験を想像させることを重視してアイデア出し）を全員のディスカッションで決定。
・グループ制作：ゲストアーティストの担当とは別に各学生二番目の班分けとしてウェブ・フライヤー
デザイン、システム開発、マケット制作に分かれて制作。
・会場下見：スイトピアアートギャラリーの展示会場を下見
・作品下見：名古屋大学で展示中の菅野作品を下見


位置計測の機材の使用方法を学ぶ


スイトピアの会場下見

SF的想像力と芸術表現

本プロジェクトはサイエンス・フィクション＝SF的想像力に着目します。すでに過去のSFや芸術表現には、現実世界のディストピア化を予言し、あらたな物語を立ちあげていく実践が数多く存在します。プロジェクトでは、こうした作品を再解釈し、関連するテーマについて議論していきます。SF的想像力を媒介とすることで、テクノロジーが作り出す魔術的リアリティを批判的に解体し、フィールドワーク、実験、理論、制作を通じて、オルタナティブな未来の物語を具体的に構想・提示することを目指します。

研究代表者：前林明次教授
研究分担者：立石祥子講師、ホアン・カストロ准教授
2026年度～

●2026年度の活動
前期
•**フィールドワーク**：福井県平泉寺白山神社、通称「苔宮」にて実施（写真左上）
•**実験**：採取した苔に水分を与えることで、微生物が再び活動する様子を観察（写真右上）
•**レクチャーとディスカッション**：SFプロトタイピングとはなにか；地球環境と科学技術について；プロジェクト型の作品と社会との関係をどう捉え記述するか；研究施設など〈科学の場〉での現代アート展示という方法について；数十億年という地質学的時間と人間の時間を融合させる作品の考え方について；物語をもちいた作品の考え方について etc.（写真左下）
•**共同制作**：2026年度オープンハウスにて《MOSS ARK CAPSULE》展示（写真右下）


苔宮のフィールドワーク


苔の中の微生物を観察する実験


ディスカッションの様子


《MOSS ARK CAPSULE》の展示

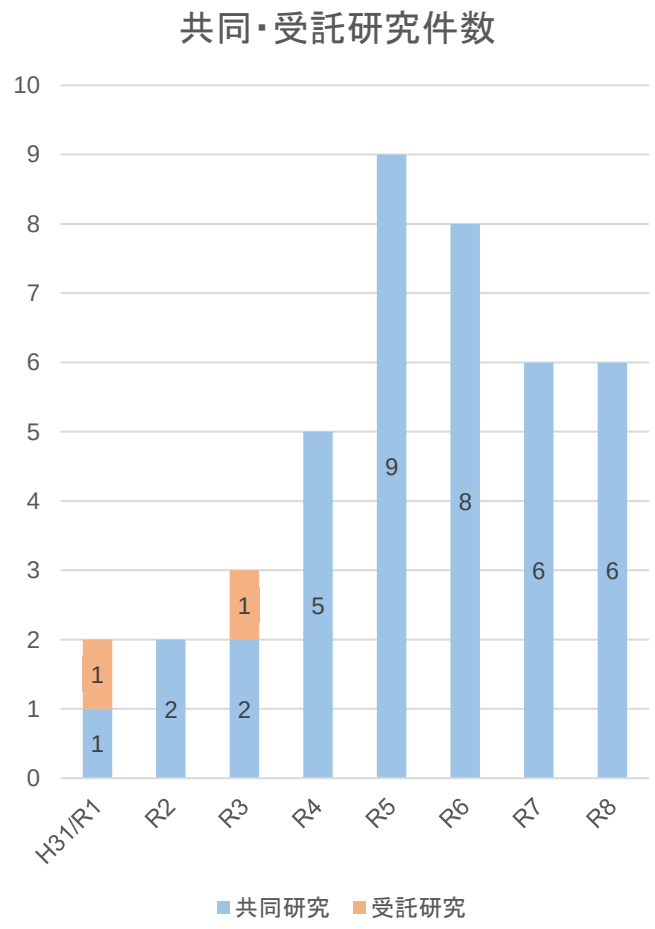
共同研究
受託研究

※ 共同研究 ： 必ずしも研究資金の授受を問わず、人材交流や技術・施設の共用による研究であり、契約を締結したもの
※ 受託研究 ： 官公庁、自治体や民間企業などから受託して行う研究

－ 共同・受託研究

2026.09現在

2026年度 （令和 8年度）	-三菱電機(株)(赤羽亨教授、平林真実教授) テーマ：データビジュアライズ研究 ・㈱コネル（平林真実教授） テーマ：VR技術を用いた変性意識状態(ASC)体験の設計手法に関する研究 ・(公財)岐阜かかみがはら航空宇宙博物館（赤羽亨教授、萩原健一准教授） テーマ：博物館におけるXR技術の適用に関する研究 テーマ：博物館での教育普及活動におけるAR教材コンテンツ活用に関する研究 ・㈱ケイミックスパブリックビジネス(刈谷市総合文化センター)（赤羽亨教授、萩原健一准教授） テーマ：研究成果を活用したワークショップおよび体験型展示の設計・展開に関する研究
2025年度 （令和 7年度）	-(株)マーブル テーマ:MR空間において共有された身体と生体情報を使った表現システムの開発とその展開可能性の研究（赤羽亨教授） テーマ:MRを用いた空間設計におけるユーザーインターフェース（赤羽亨教授、飛谷謙介准教授） テーマ:MR空間において共有された身体と生体情報を使った表現システムの開発とその展開可能性の研究（平林真実教授） -三菱電機(株)(赤羽亨教授) テーマ：データビジアライゼーション研究 - 大垣市（赤羽亨教授） テーマ：メディア表現を活用した体験型学習のデザイン
2024年度 （令和 6年度）	- 東京コンピュータサービス㈱（赤羽亨教授） テーマ:MR空間において共有された身体とアバターを使った即興的な音楽創造システムの研究開発 テーマ:MRを用いた空間設計におけるユーザーインターフェース - 東京コンピュータサービス㈱（平林真実教授） テーマ：デジタルツイン環境を前提とした、MR/AR/VRを用いた表現システムの開発とその展開可能性についての研究 -（公財）岐阜かかみがはら航空宇宙博物館(赤羽亨教授) テーマ：学習資源を活用した学習環境デザインに関する研究　他2本 - 大垣市（鈴木宣也教授、赤羽亨教授） テーマ：メディア表現を活用した体験型学習のデザイン



外部資金研究

- 公費や財団助成による研究、受託や委託研究と多くの研究が実施されています。
- 他機関の研究に研究分担者として参加する教員も増えています。

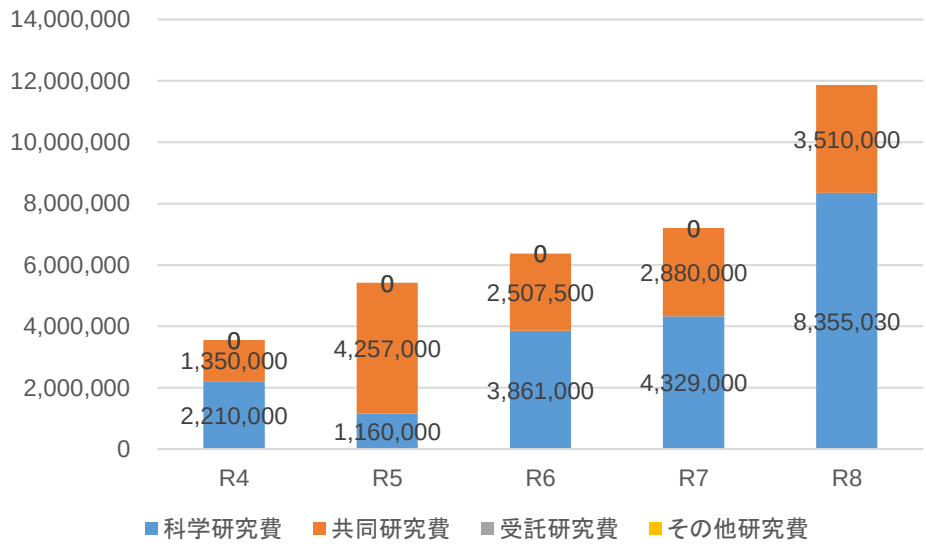
－ 外部資金研究

科学研究費 ／ 日本学術振興会 Grant-in-Aid for Scientific Research

基盤研究C 赤羽亨教授
R5-R9 鑑賞者主観情報と時空間データによるVRアーカイブシステム開発
基盤研究C 飛谷謙介准教授
R5-R9 鑑賞者主観情報と時空間データによるVRアーカイブシステム開発
基盤研究C ◎平林真実教授
R6-R8 暗所におけるARを実現する手法と暗所におけるAR表現の探究
基盤研究C ◎松井茂教授
R6-R10 「間展」の間、磯崎新の間――ポストモダニズムの美学を再考する
基盤研究B 飛谷謙介准教授
R7-R9 感性物性統合学の確立：個人感性の類型化とクロスモーダル推薦
基盤研究C ◎赤羽享教授
R8-R10 サウンドスケープ・オーバーレイによる展示空間と芸術体験の拡張
若手研究 ◎菅実花准教授
R6-R8 アイトラッキング調査による人形写真の鑑賞の分析に基づく類似的表象の見分けの研究
若手研究 ◎ジダーノワアリーナ講師
R8-R10 忘却を媒介とした映像表現の非言語的対話研究
基盤研究C 鈴木悦久准教授
R6-R8 電子音響音楽ライヴ演奏における多層的音色の継承保存と国際連携データベースの研究

◎＝研究代表者

－ 外部資金調達額 ※R8年度は8月末まで



－ 公益財団法人小川科学技術財団研究助成金

R1-R2 重要民俗無形文化財の継承支援のための四次元データアーカイブ（小林孝浩教授）
R1-R2 デジタルファブリケーションを前提としたデザインシステムの開発（赤羽亨教授）
R5-R7 XR技術を活用した博物館展示デザインに関する研究（赤羽亨教授）

－ 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国際日本文化センター

重点共同研究 ◎松井茂准教授、前田真二郎教授、伊村靖子講師
R1 マス・メディアの中の芸術家像

－ 京都大学人文科學研究所

共同研究拠点 ◎三輪眞弘学長、松井茂准教授
R1 「システム内存在としての世界」についてのアートを媒介とする文理融合的研究

－ COI拠点「感性とデジタル製造を直結し、生活者の創造性を拡張するファブ地球社会創造拠点」（国立研究開発法人科学技術振興機構）

H25-R3 小林茂教授

－ 文化庁 文化芸術振興費補助金（メディア芸術アーカイブ推進支援事業）

故坂根巌夫名誉学長が作成したメディアアートの記録映像に対して、メタデータを整備する。（5年程度で完了見込み）
R8 法的課題の整理及び契約、ワークフローの本格運用の確立等（小林茂教授）

受　賞

IAMASの学生・教員は、毎年、各種の分野で賞を受賞しています。修了生の活躍については、近年ますます注目されています。

ー2026

MIKOSHI RIDER実行委員会
代表：志村翔太（2025年卒業）、小南菜子（2025年卒業）、浅井睦（2025年卒業）、白井莉奈子
『MIKOSHI RIDER – CO-RIDE / Japanand Zimbabwe –（仮）』
公益財団法人 花王芸術・科学財団 2026年度 芸術文化部門 メディアアート展覧会助成採択

録音の肉声（株式会社トーチ）
代表：佐野和哉（2017年卒業）
『「土地・技術・ケア」をテーマとした、制作と共生のプラクティス（仮）』
公益財団法人 花王芸術・科学財団 2026年度 芸術文化部門 メディアアート展覧会助成採択

大久保雅基（2016年卒業）
『Vapor Tuning』
petites formes 2026 ファイナリスト選出

榊原礼彩（博士前期課程2年）
『Sphere(s)』
Next Young Artist Award 2025 サイバーエージェント賞

芹澤碧（博士前期課程1年）
『Is there そこにいる』
Next Young Artist Award 2025 アート＆ニューメディア部門 優秀賞

門田健嗣（2024年卒業）
『human as landscape』
FabCafe Tokyo Creative Residency Vol.3

抜け毛景観学（森田明日香、門田健嗣）（2024年卒業）
『Hair Scape』
ComoNeプログラム#02「Hello Human!」

村上泰介（2000年卒業）
協力：木村正子（名古屋工業大学大学院 工学研究科 社会工学類 建築デザイン分野）、藤井綺香（理化学研究所ガーディアンロボットプロジェクト）
『Primordial Reality: Relive the baby’s mind and body』
ComoNeプログラム#02「Hello Human!」

プロジェクト「ヤングムスリムの窓」
（阿毛香絵、澤崎賢一（2007年卒業）、野中葉、新明就太、アフメド・アリアン、エルトゥルール・ユヌス、長谷川護）
『ヤングムスリムの窓：芸術と学問のクロスワーク』
ComoNeプログラム#02「Hello Human!」

徳保晴人（博士前期課程2年）
『自動ドア – 白紙のタイプ』
Next Young Artist Award 2025 アート＆ニューメディア部門 入選

榊原礼彩（博士前期課程2年）
『A sphere, or Not』
Next Young Artist Award 2025 アート＆ニューメディア部門 入選

北島慎也（博士前期課程1年）
『co.or.dinate』
Next Young Artist Award 2025 アート＆ニューメディア部門 入選

芹澤碧（博士前期課程1年）
『Is there そこにいる』
Next Young Artist Award 2025 アート＆ニューメディア部門 入選

鈴木光泰、小峯愛華（博士前期課程1年）
「虹チャリ」
NAMIE DIGITAL ART 2025

志村翔太（2025年卒業）
『モビル文学 富士河口湖ユーフォリアライド』
やまなしメディア芸術アワード2025-26 入選

運動体設計プロジェクト
鈴木光泰、片倉洸一、小峯愛華、寺田博亮、福井悠人、松本智己、ラフマット ムハマド フィクリ ジクリ（博士前期課程1年）
瀬川晃、赤松正行（教員）
『古地図散走』
第8回「ソーシャルx散走」企画コンテスト 大賞

芹澤 碧（博士前期課程2年）、綿貫 岳海（2018年卒業）、阿部和樹（2022年卒業）新垣隆海（アーティスト名：JACKSON kaki）（2024年卒業）、志村翔太（2025年卒業）
「映像作家100人2026」選出

林賢黙（イム・ヒョンムック）（2023年卒業）
「The History of Japanese Electroacoustic Music for Piano from the Perspective of Media Genealogy」
国際学会 International Computer Music Conference 最優秀論文発表賞

鈴木光泰、小峯愛華（博士前期課程1年）
NAMIE ART AWARD 2025 企画採択

Common Nexus『ねのねプログラム』第5期生採択（2026年6月採択）
ふじかおる（博士前期課程2年）
『収まり-Do　－しっくりくるを探す身体 －』
齋藤凪沙（博士前期課程1年）
『ハンドメイド・データセットで身体を再びつくる』
田中瑛人（博士前期課程1年）、龍田スコット（博士前期課程1年）、ラフマット・ムハマド・フィクリ・ジクリ（博士前期課程2年）
『ずたん –図の探検家– 感覚を拡張する新しい「図」制作ツールの開発と実践』

2026年7月末現在

ー2025

Scott Allen（2016年卒業）
『Unreal Pareidolia –shadows–』
AI Creative Future Awards

安藤七宝店、蛭田直（博士後期課程3年）（神戸芸術工科大学准教授）
『桜清流紋』
第5回日本和文化グランプリ 特別賞

蛭田直（博士後期課程3年）（神戸芸術工科大学准教授）
“A Study on a Full-Scale Mock-Up-Based Design Process for Hat Block Manufacturing: Redesign of Forged Hat Blocks Using Three-Dimensional Electroforming and Process Improvement through Early-Stage Full-Scale Mock-Ups”
ADADA+CUMULUS 2025 Best Presentation Awards Best Paper Presentations

綿貫岳海（2018年卒業）
支援: Flying Tokyo 2024
『tap of emptiness』
2025 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA アジアデジタルアート大賞
2025 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 一般カテゴリー インタラクティブアート部門 大賞

監督: 西尾秋乃（2025年卒業）、音楽: 松井美緒（2025年卒業）
『環 –うごめく三十景–』
2025 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 福岡県知事賞
2025 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 学生カテゴリー 一般カテゴリー 動画部門 大賞

榊原礼彩（博士前期課程2年）
『Sphere(s)』
2025 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 学生カテゴリー インタラクティブアート部門 大賞

鈴木光泰（博士前期課程1年）
『かく行為、その間に存在するものたち。』
2025 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 学生カテゴリー インタラクティブアート部門 入賞

藤田 麟太郎、Scott Allen（2016年卒業）、Sugandh Malhotra
『if (smile) { capture(); }』
2025 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 学生カテゴリー インタラクティブアート部門 入賞

石井飛鳥（博士前期課程1年）、仲谷正史（慶応義塾大学）
「Liminal Space感の様相と要因の定量的分析」
第27回日本感性工学会大会 優秀発表賞

石井飛鳥（博士前期課程1年）
『ドラマチック・キャッチボール』
ISCA2025（INTERNATIONAL STUDENTS CREATIVE AWARD 2025）デジタルコンテンツ部門 ノミネート

大久保雅基（2016年卒業）
「人工知能と器楽の新しい共創関係の構築」
公益財団法人 ハーモニック伊藤財団 2025年度助成事業（文化芸術）採択

大久保雅基（2016年卒業）
《放課後セッション》
The 17th International Symposium on Computer Music Multidisciplinary Research (CMMR 2025) 採択

志村翔太（2025年卒業）、小南菜子（2025年卒業）、小林遼
『MIKOSHI RIDER – MAKE FRIENDS –』
東京舞台芸術祭2025 OPEN CALL PROGRAM 採択

MATHRAX〔久世祥三＋坂本茉里子（2008年卒業）〕
『いしのうた — 音にふれる、時にふれる』
世界遺産宗像 宗像みあれ芸術祭2025 公募作品 大賞

すずえり（鈴木英倫子）（2007年卒業）
『Opto-Sonic: Reinventing VLC for Ambient Voices』
令和7年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 国内クリエイター創作支援プログラム採択

中村駿（博士前期課程2年）
『“It” is re-Present』
令和7年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 国内クリエイター発表支援プログラム採択

志村翔太（2025年卒業）
『モビル文学』
令和7年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 国内クリエイター発表支援プログラム採択

新垣隆海（アーティスト名：JACKSON kaki）（2024年卒業）
『42.195kmの分離する身体』
令和7年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 国内クリエイター発表支援プログラム採択

藤堂高行（2014年卒業）
『『鎖に繋がれた犬のダイナミクス』海外発表』
令和7年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 国内クリエイター発表支援プログラム採択

監督：川添彩、サウンドデザイン：林暢彦（2023年卒業）
「幽明の虫」
第30回釜山国際映画祭 Wide Angle Asian Short Film Competition

石井飛鳥（博士前期課程1年）
クマ財団「クリエイター奨学金」第9期生採択

藤堂高行（2014年卒業）
『鎖に繋がれた犬のダイナミクス』
Prix Ars Electronica 2025 Artificial Life & Intelligence Honorary mention

Scott Allen（2016年卒業）
『Activated Fragments –parallelized–』
CVPR2025 AI Art Gallery採択

新垣隆海（アーティスト名：JACKSON kaki）（2024年卒業）
映像作家100人2025 選出

ー2025

綿貫岳海（2018年卒業）
映像作家100人2025 選出

今谷真太郎（2023年卒業）
映像作家100人2025 選出

加藤明洋（2018年卒業）
『Handmade Blockchain』
ComoNeプログラム#01「COMMON NEXUS −“私たち”の遭遇−」ファイナリスト選出

内田聖良（2015年卒業）
『バーチャル供養講』
ComoNeプログラム#01「COMMON NEXUS −“私たち”の遭遇−」ファイナリスト選出

ソフトバンク先端技術研究所・真鍋大度（2004年卒業）・東京大学 生産技術研究所 池内与志穂研究室
「Brain Processing Unit」
S+T+ARTS PRIZE Honorary Mention

企画代表：ウエヤマトモコ（2003年卒業）
『回遊するサウンドアーカイブ—千種区』
Common Nexus『ねのねプログラム』第1期生採択

浅井睦（2025年卒業）
高次素材技術オープンラボMelt.「コンピュテーショナル食感デザインプロジェクト」
「知財番付 2024」入選知財

トーチ（代表：佐野和哉（2017年卒業））
「ポッドキャストを起点とした、アートとテクノロジーの越境的ネットワーク形成」
一般財団法人 おおさか創造千島財団の2025年度公募助成「創造的場づくり助成」

クリティカル・サイクリング（主催：赤松正行（教授）、事務局長：志村翔太（2024年卒業））
「クリティカル・サイクリング展 この大きな空の下、風になる」
公益財団法人 花王芸術・科学財団 2025年度芸術文化部門 メディアアート展覧会助成

The Sight of Cline 実行委員会（代表：福島諭（産業文化研究センター研究員、博士後期課程3年））
「The Sight of Cline（仮）」
公益財団法人 花王芸術・科学財団 2025年度芸術文化部門 メディアアート展覧会助成

展覧会moidsプロジェクト実行委員会（三原聡一郎（2006年卒業）、斉田一樹（2006年卒業）、他）
「展覧会moidsプロジェクト」
公益財団法人 花王芸術・科学財団 2025年度芸術文化部門 メディアアート展覧会助成

志村翔太（博士前期課程2年）
『モビル文学 大垣ロストデスティネーション』
Next Young Artist Award 2024 アート＆ニューメディア部門 奨励賞
Next Young Artist Award 2024 NEW CHITOSE GENIUS賞

志村翔太（博士前期課程2年）
『Perfect Summer』
茨木映像芸術祭 2024-2025 入選

浅尾楽（博士前期課程2年）
「ガンギマリネコと見つめるレンズ」
浪江学生デジタルアート道場2024 学生アーティスト採択

ー2024

川又龍人（2022年卒業）
株式会社 PxCell「PxCell Wear（ピクセルウェア）」
「知財番付 2024」入選知財

drawCircle合同会社（加藤明洋（2018年卒業）、他）
「Refresh Science（仮）」
公益財団法人 花王芸術・科学財団 2025年度芸術文化部門 メディアアート展覧会助成

林賢黙（2023年卒業）
『well messed clavier』
2024 20th WOCMAT (Workshop on Computer Music and Audio Technology) 入選
2024 20th WOCMAT Phil Winsor International Youth Computer Music Competition Award

浅井睦（Metalium llc.）（博士前期課程2年）
UNKNOWN ASIA 2024 間宮尊賞

成瀬陽太（博士前期課程2年）
『Sight / Insight』
ISCA2024（INTERNATIONAL STUDENTS CREATIVE AWARD 2024）デジタルコンテンツ部門 佳作

對中優（博士前期課程2年）
『in a slumber − 肌のタイヤ』
2024 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 学生カテゴリー インタラクティブアート部門 優秀賞

椋木新（2023年卒業）、三次元大介
『TETOMO』
2024 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 一般カテゴリー インタラクティブアート部門 優秀賞

椋木新（2023年卒業）
『SPIRO MAKER』
2024 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 一般カテゴリー インタラクティブアート部門 入賞

env.（金箱淳一（2008年卒業）＋ 原田智弘 ＋ 中村開）
『Blooming Speaker』
2024 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 一般カテゴリー インタラクティブアート部門 入賞

志村翔太（博士前期課程2年）
『異邦人』
第三回AIアートグランプリ 佳作

佐野風史、城戸双汰朗（博士前期課程1年）、鶴目佳蓮（博士前期課程1年）
《耳研澄装置製造工場》
IVRC2024 LEAP STAGE 青沼優介賞
IVRC2024 ヤマハ株式会社賞
IVRC2024 CRI・ミドルウェア賞

中村駿（博士前期課程1年）
『カサネ色』
2024年度グッドデザイン・ニューホープ賞 入選

山岸奏大（2024年卒業）
『Grasp(er)』
2024年度グッドデザイン・ニューホープ賞 入選

すずえり（鈴木英倫子）（2007年卒業）
第18回 shiseido art egg 入選

森田明日香（2024年卒業）、山岸奏大（2024年卒業）
『Translate a passage』
アートと遊びと子どもをつなぐメディアプログラム2024・汗かくメディア賞

浅井睦（Metalium llc.）（博士前期課程2年）
『Superposition machine』
「クセがあるアワード：混」佐藤正和審査員賞

西田騎夕（2022年卒業）
『アロエベラシンセサイザー』
「クセがあるアワード：混」福原志保審査員賞

石橋友也（博士後期課程2年）
『Self-reference microscope』
令和6年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 国内クリエイター創作支援プログラム採択

阿部和樹（2022年卒業）
『手描きの計算』
令和6年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 国内クリエイター創作支援プログラム採択

藤堂高行（2014年卒業）
『鎖に繋がれた犬のダイナミクス』
令和6年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 国内クリエイター創作支援プログラム採択

芹澤 碧（博士前期課程1年）
『Is there そこにいる』
令和6年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 国内クリエイター発表支援プログラム採択

對中 優（博士前期課程2年）
『paper planes sphere』
令和6年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 国内クリエイター発表支援プログラム採択

松井美緒（博士前期課程2年）
『残波』
令和6年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 国内クリエイター発表支援プログラム採択

長島勇太（2006年卒業）
『Archival Practice for Site-Specific Works 3.0』
令和6年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 国内クリエイター発表支援プログラム採択

浅井睦（博士前期課程2年）
高次素材技術オープンラボMelt.「コンピュテーショナル食感デザインプロジェクト」
第1回 Tech Direction Awards R&D/Prototype部門 Bronze賞

髙山祐輝、根岸渓介、川又龍人（2022年卒業）
『mokemoke』
SHIBUYA QWS QWSチャレンジ採択

ー2024

芹澤 碧（博士前期課程1年）
デジタル等クリエイター人材創出事業「Flying Tokyo 2024」採択

綿貫岳海（2018年卒業）
デジタル等クリエイター人材創出事業「Flying Tokyo 2024」採択

兒島朋笑（博士前期課程2年）
クマ財団「クリエイター奨学金」第8期生採択

佐野風史（博士前期課程1年）、早田仁知（博士前期課程1年）
『Phonoscape Project』
COUNTER POINT 第14期採択プロジェクト

成瀬陽太（博士前期課程2年）
『Sight/Insight ー運動知覚・探索的行為から光の見方の意識の変容を試みるー』
COUNTER POINT 第13期採択プロジェクト

Scott Allen（2016年卒業）
『Unreal Pareidolia -shadows-』
CVPR2024 AI Art Award Winners the best artworks

篠田幸雄（2017年卒業）
『causal SW（コーザルスイッチ）：さわれる電子工作応用教具づくりの素材』
令和6年度 第40回 学習デジタル教材コンクール 日本児童教育振興財団賞

岡本悠里（博士前期課程2年）
『月の声を聴くための言葉』
令和5年度ジャグラ作品展 出版印刷物部門 印刷時報㈱賞

菅野創（2009年卒業）、加藤明洋（2018年卒業）、綿貫岳海（2018年卒業）
『かぞくっち』
Prix Ars Electronica 2024 IInteractive Art + 部門 Honorary Mention

IMATANI（今谷真太郎（2023年卒業））× NS
SICF25 EXHIBITION部門 山城大督賞

真鍋大度（2002年卒業）
2024年（第34回）福岡アジア文化賞 大賞

東加奈子、厚木麻耶（2021年卒業）（株式会社電通所属）
Young Lions Competitions 2024 日本予選 PR部門 ゴールド（ヤングカンヌ日本代表選出）
Young Lions Competitions 2024 日本予選 メディア部門 シルバー

「遙伝公社」（浅井睦（博士前期課程2年））
第二期アーティストインレジデンス 採択

新垣隆海（アーティスト名：JACKSON kaki）（2024年卒業）
映像作家100人2024 選出

綿貫岳海（2018年卒業）
映像作家100人2024 選出

CCO、Creative Director、Planner：川嵜鋼平（2004年卒業）
地球料理 Earth Cuisine「PROUD LIBERICA COFFEE」
2024 Clio Awards Partnerships & Collaborations部門 SILVER

門田健嗣（2024年卒業）
『風景を採取する自転車建築』
JIDF学生文化デザイン賞2024 入選

安野太郎（2004年卒業）
サウンドパフォーマンス・プラットフォーム特別公演 安野太郎ゾンビ音楽『大霊廟IV—音楽崩壊—』
第23回佐治敬三賞

監督・撮影・編集：高嶋浩（2006年卒業）
『阿寒湖見聞録』
第6回 日本国際観光映像祭 ART&FACTORY Japan部門 Grand Prix

おおしまたくろう（2017年卒業）
『滑琴狂走曲 in 秋田!（カッキンラプソディー・イン・アキタ）』
やまなしメディア芸術アワード2023-24 Y-SILVER（優秀賞）

兒島朋笑（博士前期課程1年）
『be noisy -Ver. 2019-2022』
Web Audio Conference’24 入選

竹澤風太（博士前期課程2年）
制作協力：椋木新（2023年卒業）、平本大輔（博士前期課程2年）、塩澄祥大（博士前期課程2年）、成瀬陽太（博士前期課程1年）
『Informalized Void』
第29回 学生CGコンテスト アート＆ニューメディア部門 最優秀賞

大越円香（2023年卒業）
『invisible view』
第29回 学生CGコンテスト アート＆ニューメディア部門 入選

今谷真太郎（2023年卒業）
『ARコミック@「壁」』
第29回 学生CGコンテスト ゲーム＆インタラクション部門 入選

森田明日香（博士前期課程2年）
『Observing Variation: in Sliced Loin Hams / 差異の観測: スライスロースハム群』
やまなしメディア芸術アワード2023-24 入選作品

楊慶新（博士前期課程2年）
『code play/码上演绎』
やまなしメディア芸術アワード2023-24 入選作品

大久保雅基（2016年卒業）
音楽劇「声のゆくえ」
やまなしメディア芸術アワード2023-24 入選作品

Scott Allen（2016年卒業）
『Unreal Pareidolia -shadows-』
やまなしメディア芸術アワード2023-24 入選作品

新津亜土華（2000年卒業）
『Mirror#Narcisse』
やまなしメディア芸術アワード2023-24 入選作品

IAMAS
イベント

- 毎年、修了研究発表会・プロジェクト研究発表会を開催し、成果の発表を行っています。
- 2025年度はIAMAS アーティスト／リサーチャー・イン・レジデンス事業の成果を修了展内の関連展示として再展示しました。

IAMAS2026
第24期生修了研究発表会・プロジェクト研究発表会
Graduation and Project Research Exhibition

IAMAS2026では第24期生による修了研究発表会とプロジェクト研究発表会を行いました。本展では、「余熱」をテーマに掲げました。会場はソフトピアジャパンセンタービルをメインとしてIAMAS図書館を加えました。会場構成から展示企画を学生とともに検討し、プロジェクト研究発表会の展示や、関連展示、有志によるレセプションが再開されるなど従来の卒展の範囲にとどまらない新たな広がりを持つものとなりました。

開催日時:2026年2月20日（金）- 2026年2月23日（月・祝）10:00-18:00 (初日のみ13:00-)
実施会場:ソフトピアジャパンセンタービル、図書館
詳細URL:https://www.iamas.ac.jp/exhibit26/
修了作品展示：13件 / プロジェクト展示：6件
イベント：17件 / 来場者数：595名（センタービル1F受付）、283名（図書館）
アンケート:合計164件（スマホ回答145件、紙回答19件）

-Program

2026.2.20(金)
・IAMASガムラン部演奏会
・IAMAS THERMAL SESSION
・「HUMAN through AI」作品解説＆トークイベント
・AIとデザイン:修了展Webサイトの制作報告

2026.2.21(土)
・プロジェクト研究発表会・口頭発表
・IAMAS THERMAL SESSION
・「レシピ」からの逸脱ー「空気の研究 / study of air」の再制作を通して見えたことー
・Zhdanova Alina「言葉のない手紙」パフォーマンス
・NxPC.Lab vol.76「西濃帝国二連式直下隧道 - 最深部《核》にて」

2026.2.22(日)
・運動体設計主催:早朝寒中古地図散走
・プロジェクト研究発表会・口頭発表
・「他人の声を聞く」こと:反響することばと、声の韻律
・Zhdanova Alina「言葉のない手紙」パフォーマンス
・博士論文「小規模クラブにおけるコラージュ的コモンズの醸成
　—空間性・集団性・オーガナイザーに着目して—」について
・金山智子・最終トーク
・2026: IAMASオデッセイ
・IAMAS2026 レセプション

2023.2.23(月・祝日)
・菅実花ゼミ:輪読会
・メディアアート教育とは何か——IAMASの教員・学生インタビューから考える
・IAMAS THERMAL SESSION
・IAMASONIC 2026:全てのIAMASにありがとう。

















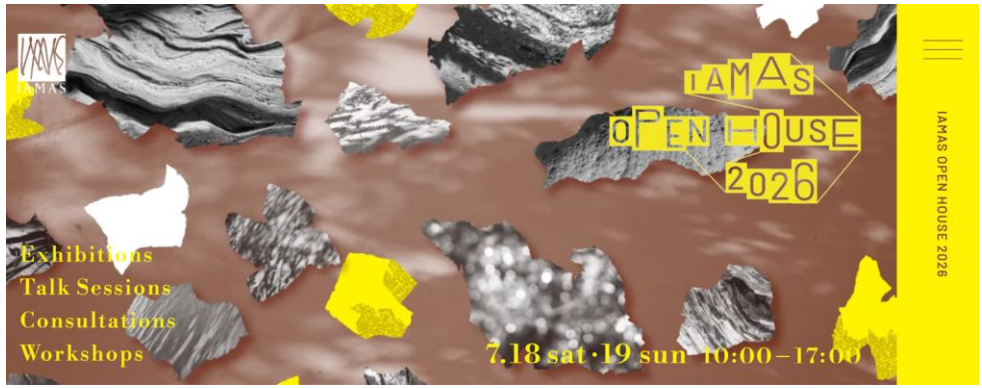
IAMAS OPEN HOUSE 2026

開催概要：
IAMASの教員および在学生が全員参加し、多様な研究成果を発表する公開フォーラムです。科学的知性と芸術的感性の融合を目指した理論と応用を実践する研究科の取り組みを来場者と共有する機会であると共に、学校紹介や進学相談の機会も担っています。毎年進学を希望する来場者が多く集まります。

本年度は展示総数37企画、イベント総数11企画と昨年度よりも5つ多い企画が集まり賑やかに開催されました。来場者カウント数は、センタービル受付、図書館、ワークショップ受付の3箇所合計で7/18(土) 363人、7/19(日) 379人の二日間で計742名となりました。図書館での展示が行われていたこと、トークイベントも2日間に渡り常時行われていたことなどが、来場者カウンタ数の増加に繋がったようです。また、展示やトークにおいてはここ数年、IAMAS博士後期課程（博士）関連の企画も増えていること、トークイベントにおいても教員の自主的な学際的な内容のものが集まったことも、進学へ向けて熱心な来場者を惹きつけていました。 今年はトークイベントの内容をすべて両日配信も行いました。

開催日時：2026年7月18日(土) -19日(日) 10:00－17:00
実施会場：対面開催 センタービル、WS24、IAMAS図書館各会場
詳細URL：https://www.iamas.ac.jp/openhouse/

開催企画一覧：
進学相談会（IAMAS OPEN HOUSE 2026実行委員会）
進学説明会（IAMAS OPEN HOUSE 2026実行委員会）
学内ツアー（IAMAS OPEN HOUSE 2026実行委員会）
Kioskを使用したポスター展示（産業文化研究センター [RCIC]）



IAMAS OPEN HOUSE 2026 メインビジュアル

















Ogaki Mini Maker Faire 2026

※ 画像は前回２０２４のものです。













Ogaki Mini Maker Faire について

Maker Faireは、電子工作、ロボティクス、クラフト、ペーパークラフト、電子楽器、サイエンス、リサイクル／アップサイクルなど、様々な分野のつくり手「Maker」たちが全国から集まり、つくったものを見せ、語り、その楽しさが伝播していくメイカームーブメントの祭典です。子どもから大人まで様々な人が創造性を刺激し合い、学び、交流するイベントとして、世界では２００都市以上、日本では、東京、京都、浜松、刈谷などで開催されています。

うち地方のコミュニティが開催するものを「Mini Maker Faire」と称しており、大垣では平成22年(2010年)から令和6年(2024年）まで、隔年で8回開催してきました。令和8年(2026年)も前回同様の規模で開催するとともに、今回はソフトピアジャパン開設30周年の記念事業と位置づけ、ものづくりに対する興味や創造性を育む機会とします。

運営主体

主催：Ogaki Mini Maker Faire 2026実行委員会
大垣商工会議所、ぎふIT・ものづくり協議会、一般社団法人岐阜県情報産業協会、
一般社団法人岐阜県工業会、公益財団法人 ソフトピアジャパン、
公益財団法人 岐阜県産業経済振興センター、岐阜県金属工業団地協同組合、
伊藤忠アーバンコミュニティ・グループ、岐阜工業高等専門学校、岐阜県、大垣市、
情報科学芸術大学院大学［IAMAS］
共催：株式会社 インプレス

イベント概要

会期：2026年12月5日（土）12:00 – 17:00
　　2026年12月6日（日）10:00 – 16:00
会場：ソフトピアジャパンセンタービル（岐阜県大垣市加賀野4-1-7）
内容：ものづくりを楽しむ「メイカー」たちが全国から集い、展示とデモンストレーションにより新しいものづくり文化を発信する対話型イベントを実施する。
「Ogaki Mini Maker Faire」の特徴：
・世界的なものづくりの祭典として高い知名度を誇り、全国から多様な「メイカー」が集結。
・ユニークかつ多彩な作品展示や出展者との交流により、参加者の「やってみたい」を刺激。
・子ども、学生、主婦層、高齢者まで幅広い世代が参加。
・企業出展や企業サークルの参加もあり、企業間交流を創出。
出展料：個人・グループ　５，５００円（教育機関は無料）
　　企業　　５５，０００円
入場料：無料

現代性の環境

“「現代性の環境」は、科学的知性と芸術的感性の融合を建学の理念に、メディア表現の先駆的研究を行う情報科学芸術大学院大学［IAMAS］の学生有志による芸術実践を中心に紹介する展覧会です。現代社会を生きる私たち、とりわけ若い世代が直面する切実かつ避けがたい問いに、メディア表現を探究する多様な視座から向き合います。”

会場｜The Terminal KYOTO
（〒600-8445 京都市下京区新町通仏光寺下ル岩戸山町424番地）

会期｜2026年 3月7日(土)—4月12日(日) 9:30-18:00
前半: 3月7日(土)—3月23日(月) 後半: 3月27日(金)—4月12日(日)

企画担当｜ 大久保美紀（IAMAS）
主催｜ 情報科学芸術大学院大学［IAMAS］
協力｜ art-sensibilisation

※展覧会の様子のスチール撮影をRCIC研究員が担当しました。

関連イベント

IAMAS関係の作家による展覧会実践をめぐるディスカッション
無料・予約不要
日時｜3月28日（土）14:00—16:00
会場｜The Terminal KYOTO 2F
登壇｜秋庭史典（名古屋大学）、三輪眞弘（IAMAS名誉教授・京都芸術大学）、吉岡洋（京都芸術大学）、大久保美紀（IAMAS）

デモンストレーション
ふじかおるによる「収める」デモンストレーション「無用を収め続ける」を以下の日程で実演します。
各回15分程度、参加無料。お気軽にお立ち寄りください。
（下記以外の展示では、作家が収め続ける行為についての映像記録を上映します。）

3月27日（金）11:30〜、16:00〜
3月28日（土）13:30〜、16:30〜
4月11日（土）11:30〜、16:00〜



展覧会の様子

IAMAS アーティスト/リサーチャー・イン・レジデンス事業

概要

情報科学芸術大学院大学（以下 IAMAS）では、2025年度よりアーティスト／リサーチャー・イン・レジデンス事業を隔年で開始しています。初年度となる昨年度は、2025年8月から11月までの3か月間、映像作家・キュレーターのジダーノワ・アリーナさんが本学に滞在しリサーチ･ワークショップ･作品制作を行いました。

　成果展示はは2025年10月31日（金）、11月1日（土）で行ったほか「IAMAS 2026」の関連展示としても再展示を行いました。

アーティストは滞在期間中にIAMASに滞在して制作・研究を行い、本学学生と交流するとともに、県民や学生に開かれた形でワークショップや制作作品の展示を行います。

活動の詳細は以下のWEBをご参照ください。

https://www.iamas.ac.jp/news/air2025/



ジダーノワ・アリーナさん

作家プロフィール

ジダーノワ アリーナ ／ Zhdanova Alina

モスクワ（ロシア）に生まれ北海道で育つ。現在は京都を拠点に、映像作家・キュレーターとして京都で活動。博士（美術）。京都精華大学メディア表現学部教員。

人の記憶や人格、その背景にある社会背景に興味があり、個人や他者の語りを通じて様々な国や街でリサーチを行っている。忘却と想起、記憶の再構築などをテーマに、人が話す日常や記憶をもとに、自作の架空言語やアニメーションをつかって鑑賞者の記憶と対峙するような作品を作る。











全3回「言葉のない手紙」ワークショップの様子





「IAMAS 2026」内でのパフォーマンスの様子

地域貢献活動

・地域貢献活動の一環として、企業を対象とした岐阜イノベーション工房を行っています。



岐阜イノベーション工房2025

岐阜イノベーション工房は、参加者が、イノベーション創出に有効であるとされる手法を主催者から学び、参加者の所属組織などにおいて実践し、実践からの学びを共有することを通じて、イノベーション活動に積極的に取り組む風土を岐阜県内に醸成することを目的として情報科学芸術大学院大学が実施しているプログラムです。

2018年からの5年間で26社が参加し、本事業への参加をきっかけにイノベーションがいくつも生まれました。

◎2026年3月11日(水)13:15 – 16:30
Co-Labo SOPIA(コラボ・ソピア)(岐阜県大垣市今宿6丁目52 ワークショップ24 2F)

1. 参加企業による成果発表
株式会社Clap　シェアスペース運営者向けSaaS型支援ツールの検証
吉田木材株式会社　社内アイデアコンテスト「キノプロ」の設計・実施
日本システム開発株式会社　営業組織の成熟化とコード自動修正ツールの開発
株式会社岐阜新聞社　地域特産品の通信販売事業

2. ミニレクチャー
情報科学芸術大学院大学[IAMAS]　教授　小林茂

3.ゲストを交えたディスカッション

プロダクト・イノベーション

プロダクト・イノベーションとは、新しいプロダクト(製品・サービス)であって、その企業の以前のプロダクトとは大きく異なり、かつ市場に導入されているものを意味します。これまでに以下の企業の取り組みが報告されました。

株式会社Clap:ご褒美おつまみ定期便nohaco
おつまみ専門店が監修したAIが、質問の答えから分析したあなた好みの本格おつまみを毎月お届けする定期便サービスです。送られてきたおつまみを評価すると、どんどんあなた好みのセレクトになっていきます。(2019年度参加者・2022年1月リリース)

カンダまちおこし株式会社:CoLoRs
企業版ふるさと納税制度を活用して企業と地方の関係性を構築することにより、企業と地方、双方にとっての持続的な発展と課題解決を支援するサービスです。自治体職員対象の勉強会などにより、従来は難しかったマッチングを効果的に促進します。(2021年度参加者・2023年2月リリース)

岐阜イノベーション工房2026　開催プログラム

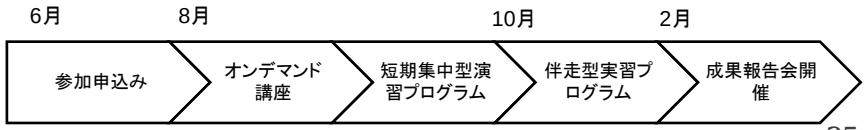
公開講座
IAMAS教員がIAMASならではの視点から講座を実施します。
オンデマンドプログラム
IoT講座:IoTデバイスを用いたデータ活用の入門　UIプロトタイプの制作講座:Webサービス(Figma)を利用したアプリ画面制作

短期集中型演習プログラム　講師の指導のもと、ステップごとに組まれたプログラムをチーム毎に進めていきます。

伴走型実習プログラム　演習プログラムで学んだ方法論をそれぞれの組織等に持ち帰り、自分たちで設定した実際の課題に取り組むことにより、短期集中型演習プログラムでの体験を経験とすることを目的とします。

成果報告会　期間中の成果を報告する公開の成果報告会を開催します。

2026スケジュール



出　版
広　報

- IAMASについて認知度を高めるための広報活動を行う
- 研究や活動をまとめた「紀要」やプロジェクト成果をまとめた冊子等の成果物を発行するなど、IAMAS関連情報を記録･整理する

－ 情報科学芸術大学院大学紀要　第17巻 2025年



［特集1］ 赤松正行退任記念

［特集2］ 金山智子退任記念

［特集3］ IAMAS アーティスト／リサーチャー・イン・レジデンス2025

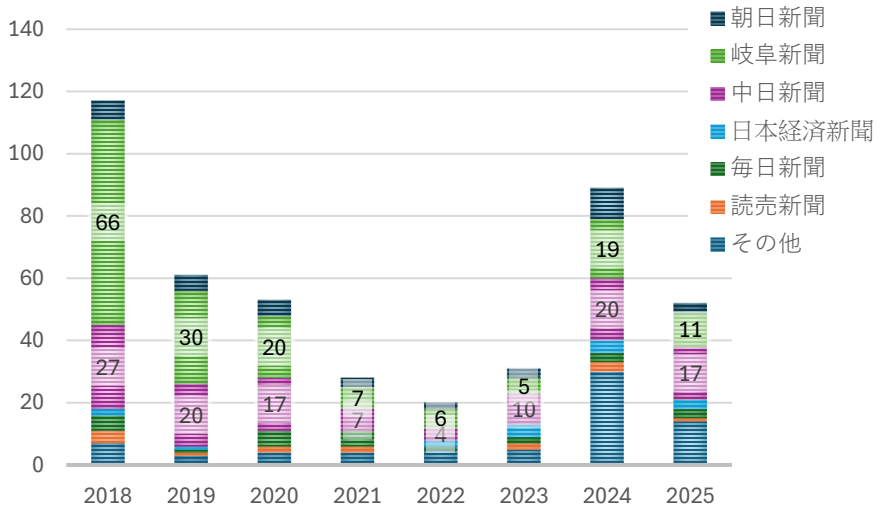
［研究ノート］
- 〈リミナル都市〉の芸術論に向けて
- 「場所・感覚・メディア」プロジェクト総括
- Collaborative Design Research Projectの研究報告
- 運動体設計の軌跡：身体知の覚醒から社会実装へ
- The Art of Listening Project ― 3年間の活動報告
- 池田町有線放送電話アーカイブ化の活動記録―地域の記憶の保存、継承、そして表現へ
- 石に話すことを教える: 生に内在するものとしての「技術」

［評論］
- 赤松正行《タレスの刻印》：墨流しの技法、あるいは不確実性を生きる芸術

［その他］
- メディア表現の設計不可能性

※R6より機関リポジトリで全巻公開

－ 新聞掲載件数



－ 掲載･執筆・刊行など（R8.7現在/1年分）

＜教員＞

・松井茂 教授

「美の十選 待ち望む経験」連載執筆
(日本経済新聞 朝刊 2026.7.9-23)

(1) マッティア・プレーティ「ホメロス」
(2) 河原温「百万年－過去」「百万年－未来」
(3) エドゥアール・マネ「バルコニー」
(4) 藤幡正樹「Light on the Net Project」
(5) ベルト・モリゾ「植木に水をやる若い女性」
(6) ケン・ゴールドバーグ「テレガーデン」
(7) カイユボット「バルコニーの男性、オスマン大通り」
(8) ミズタニタマミ「ゆめの中継；状況の上書き1」
(9)　ペギーン・ベイル・グッゲンハイム「On the Grand Canal」
(10) 山下麻衣＋小林直人「発芽を待つ」

＜卒業･修了生＞



・新垣隆海 氏

雑誌「EYESCREAM 第20巻第1号」
(スペースシャワーエンタテインメントプロデューシング /2025.9)
特集「Sub-Cul.Dex2030」にサブカルを形成しているアーティスト･クリエイターとして掲載



・綿貫岳海 氏

雑誌「Forbes JAPAN 2026年3月号」
(リンクタイズ株式会社/2026.12)
「進化するクリエイター経済 HOT CREATORS 20」に選出、
「テクノロジーを武器にアートとエンタメ経済圏を接続する watakemi(映像作家)」としてインタビュー掲載



・山辺真幸 氏

書籍『ProcessingとPythonではじめるデータビジュアライゼーション入門』
(慶應義塾大学出版会/2026.6)
「データビジュアライゼーション」をProcessingとPythonで基礎から実践まで体系的に学べる入門書を刊行



・明貫紘子 氏

書籍『アニメーション美術の世界(別冊太陽)』
(平凡社/2026.7)
アニメ背景美術のクリエイターを特集した「別冊太陽」を監修



・野呂祐人 氏

書籍『作ってあそぼう！うごくおもちゃ 全5巻』
(ほるぷ出版/2025.12-2026.3)
小学1･2年生の授業で活用できる「うごくおもちゃ」シリーズを刊行

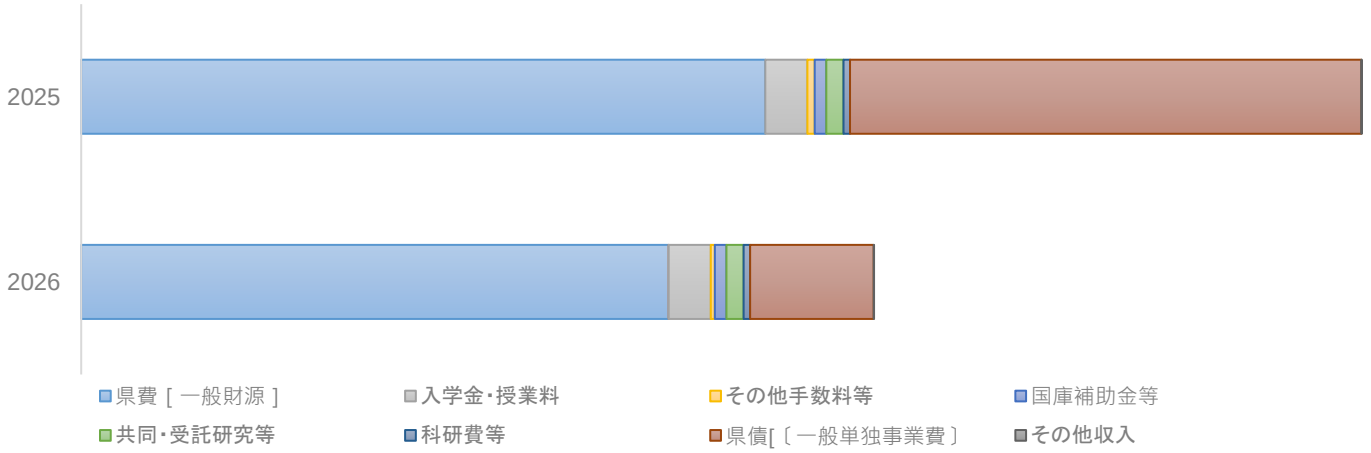
運　営

- IAMASの運営に関する予算は以下のとおりとなっており、歳入の約9割は岐阜県予算から措置されています。

（千円）

ー　歳入の部

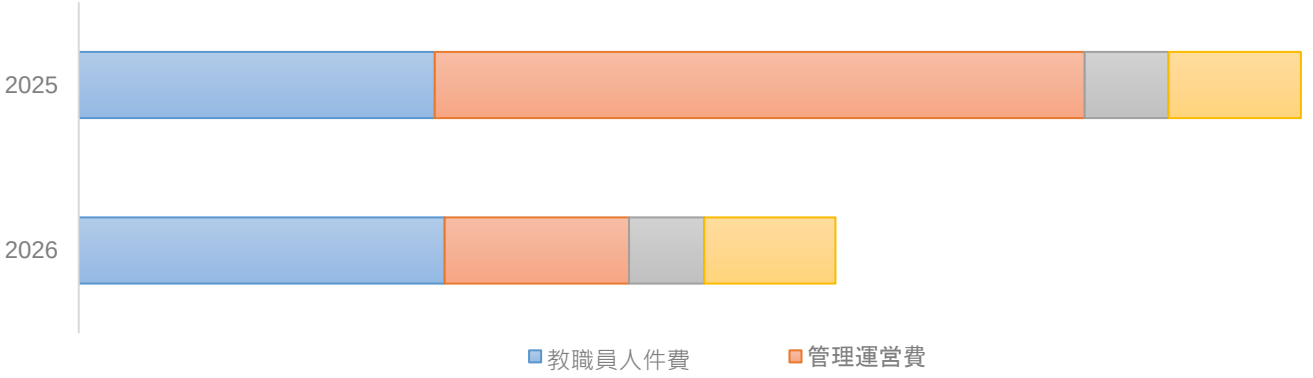
	2026	2025
県費［一般財源］	505,943	589,143
入学金・授業料	36,261	36,261
その他手数料等	3,473	6,284
国庫補助金等	10,000	10,000
共同・受託研究等	14,800	14,800
科研費等	5,600	5,600
その他収入	299	306
県債〔一般単独事業費〕	106,400	440,400
合　計	682,776	1,102,794



ー　歳出の部

	2026	2025
教職員人件費	330,200	321,271
管理運営費	166,386	586,455
教育研究費	67,873	75,722
施設整備費	118,317	119,346
合計	682,776	1,102,794

［主な使途］
管理運営費：校舎維持、非常勤講師、広報、入学試験
教育研究費：PJ研究、教員研究、特別給付生
施設整備費：校内システム設備整備、図書館運営



－ 授業料、入学料その他の費用

- 入学前に必要な費用
  入学金
  県内の者:226,000円
  県外の者:338,000円

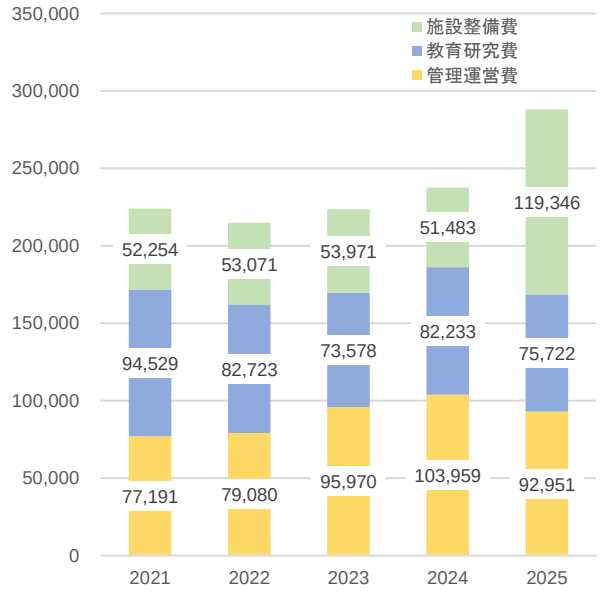
- 在学時に必要な費用
  授業料
  年額 535,800円
  前期 04月30日までに納付
  後期 10月31日までに納付

- 入寮者のみ
  寮費 22,800円/月
  共益費 35,000円/年（前納）

- 授業料減免に関する情報
  学業に精励し、人物健全な者で、次の各号のいずれかに該当する場合、授業料の減免または 納入期限の延長が認められる場合があります。
  1. 生活保護法第6条第1項に規定する被保護者の世帯に属する者
  2. 長期疾病、生業の不振又は失業のため、その生計が著しく不良となり、前号の被保護者に準ずる程度に困窮していると認められる世帯に属する者
  3. 天災その他の災害により著しく損害を受け、学資の支弁が困難な世帯に属する者
  4. 知事が別に定める基準により情報科学芸術大学院大学特別給費生として認めた者
  5. その他知事が特に減免等の必要があると認めた者

ー 運営事業費（当初予算額）の推移（人件費を除く）

（単位:千円）



※2025年度は、施設整備費に校内新ネットワーク保守運用業務委託費
を含む

－ 情報科学芸術大学院大学に対する大学評価（認証評価）結果

情報科学芸術大学院大学は、公益財団法人大学基準協会による2021年度大学評価（認証評価）の結果、同協会の定める大学基準に適合していると認定されました。
認定期間:2022年4月1日 － 2029年3月31日

－ 中期目標及び中期計画

情報科学芸術大学院大学中期目標及び中期計画を策定し、IAMAS WEB に掲載しています。（独立行政法人化されていない大学の策定は任意）
計画期間:2024年4月1日 － 2030年3月31日

Japan University Accreditation Association
UNIVERSITY ACCREDITED
2022.4～2029.3

学　生
支　援

- IAMASの学生は、多様な専門分野、様々な地域から入学があるため、進路についても多様な要望に対応する形で支援しています。
- 学生の皆さんが、研究や制作活動に打ち込めるよう生活についての支援も行っています。

キャリアセミナー

学生が進路を検討するために必要な支援を行っています。

- 第1回キャリアセミナー　2026年4月9日（木）9:00-12:05 ＊対面開催
  人生と芸術、仕事と研究、IAMAS生活と社会生活といった切り口で充実した内容が身近な近なスタッフ（3名）から紹介された。

- 第2回キャリアセミナー　2026年4月28日（火）13:20~16:25 ＊対面開催
  キャリアプランについて、地域と協働した芸術実践について、IAMASでの学び方が現在の仕事にどのように生きているかといった内容でお話いただいた。

  講師：阿部由布子氏、カルティカ・メノン氏（IAMAS修了生）

- 第3回キャリアセミナー　2026年9月25日（金）13:20 - 16:25 ＊対面開催
  在学生が進路を考える際に参考となるよう、身近な本学修了生からの声を聴く機会を提供しています。

  講師：イトウユウヤ氏、山城大督氏（アカデミー卒業生）

キャリアカウンセリング

学生一人一人に対し、担当教員が進路について面談を行っています。

国際交流員

海外出身の教員や交換留学生のサポート、IAMAS研究成果の海外発信などのため、自治体国際化協会（クレア）「語学指導等を行う外国青年招致事業（JETプログラム）」を活用し、国際交流員（Coordinator for International Relations［CIR］）を受け入れています。
学生の研究活動にも大きな支援となります。

交換留学制度

IAMASでは、海外の教育機関との学生交流事業を実施しています。
このプログラムは、学生に海外で豊かな経験を積んでもらうもので、毎年2名が提携校に1〜3か月留学するとともに、提携校の学生がIAMASに滞在し、互いに交流を深めます。
現在の提携校：リンツ美術工芸大学（オーストリア）
＊2025年度：M1学生1名・M2学生1名留学（計2名）、リンツ工芸大学学生1名を受入。

学生寮［RIST］

学生寮［RIST］は、IAMASから約1.3Kmの住宅街に位置し、ユニットバス、ベッド、電気調理器具など快適さと機能性を備えた生活空間となっています。また、学生が利用しやすい寮費としています。（オール電化のためガス調理器具・暖房は使用できません。）
大垣市藤江町1丁目1−7
全40室（洋間）





仮眠室

夜間の帰宅困難時はセンタービル2階に、仮眠を取ることができる和室があります。研究活動で疲れた身体を癒します。

保健室

平日の午前9時〜午後5時15分の間はセンタービル3階の保健室に常備薬を置き、怪我の応急処置に看護師が対応します。健康に関すること、毎日の暮らしに関すること、精神面のことなどの相談に対応するほか、気分の優れないときには休養室で横になって休むことができる場所となっています。

カウンセリングルーム

月に2回（火曜日または金曜日:11時40分〜16時30分）、センタービル3階保健室2では、随時カウンセリングを行っています。臨床心理士の2名のカウンセラーが交代で対応します。

入　試

- 入学生の獲得に向けて、毎年、進学説明会、相談会を実施するとともに、夏はオープンハウスを開催し、秋には岐阜高専対象進学説明会に教員を派遣しています。
- また、入試に関する相談や学校見学は随時受け付けしています。
- 県外での進学イベント、進学説明会、相談会とオンラインでの進学説明会を行い、入学生の獲得に取り組んでいます。

IAMAS OPEN_HOUSE2026

2026年7月18日(土)-19日(日)の2日間にわたり、「iamas open_house: 2026」を開催しました。昨年度に続き、IAMASキャンパスで開催するもので、間近で教員・学生の研究や作品、パフォーマンスを見ていただくとともに、進学相談会、進学説明会、学内ツアー等を通じて、教員や在学生との交流を図る機会となりました。

進学説明会

本学教育課程の主な流れと研究活動について紹介し、入試日程や入試方法、出願手続きなどについて説明しています。
日　　時：2026年7月18日(土)～19日(日)10:30～11:30
場　　所：ワークショップ24　5F R-cafe(対面のみ)

進学相談会

本学への進学を考えている方のために、本学教員が、受験、制作・研究の進め方、学校生活などの相談を受けています。
日　　時：2026年7月18日(土)～19日(日) 10:00-17:00
場　　所：ワークショップ24 5F(対面のみ)
参加人数：7月18日(土)17名　7月19日(日)22名

岐阜高専対象進学説明会

岐阜工業高等専門学校専攻科生に対し、本学教育課程の主な流れと研究活動について紹介し、特別推薦入試日程や入試方法、出願手続きなどについて説明しています。

日　　時：2025年11月19日(水)15:00～17:00(2026年開催予定(日時未定))
場　　所：岐阜工業高等専門学校　多目的ホール(対面のみ)



進学説明会・相談会

オンラインでの進学説明会
【第1回】
日　　時：2026年4月24日(金)19:00-20:30
参加人数：31名

【第2回】
日　　時：2026年7月11日(土)19:00-20:30
参加人数：17名

京都会場
日　　時：2026年6月14日(日)14:00-17:00
場　　所：京都FRAME IN BOX
参加人数：10名

東京会場
日　　時：2026年6月27日(土)14:00-17:00
場　　所：銀座ユニーク貸会議室7丁目店
参加人数：15名

令和8年10月23日(金)
情報科学芸術大学院大学[IAMAS]運営協議会